

Rethink フォーラム

視点を変えれば、 世の中は変わる。

たとえば
半分だけ水の入ったコップを見て、
もう半分しかない、と思うか、
まだ半分もある、と思うか。

視点を変えれば、
世の中の見え方は変わってきます。
当たり前だと思っていたことでも、
違う視点から見つめ直してみると、
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、
一人では気づけない
新しい視点に気づくことで、
地域活性化のきっかけを見つげる場です。

視点を変えれば、世の中が変わる。
地域が変わる。
未来を変える発見は、
意外と身近に
あるのかもしれない。



「Rethinkフォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる。」(京都新聞主催、京都府、京都市など後援、Rethink PROJECT協賛)が7月1日、京都市中京区のANAクラウンプラザホテル京都で開催され、約100人が参加しました。第1部は漫才師「ロザン」が「新しい視点の見つけ方」と題してトークショーを展開しました。また第2部では門川大作京都市長と赤松玉女京都市立芸術大学長が加わり、「Rethink京都～若者と創る京都の未来～」をテーマにパネルディスカッションを実施し、多彩な角度から意見が交わされました。要旨を紹介します。

ゲスト



ロザン (漫才師)
すが ひろふみ うじはら ふみのり
菅 広文氏 宇治原 史規氏
演題：新しい視点の見つけ方

異なった視点が発想を変える

一同級生同士で芸人になったのです。
菅 宇治原さんは高校へ外部から来る20人枠の1人で、僕以外に友達はなかったですね(笑)。ただ、2人での会話がとても楽しく、このまま仕事にしようと思いつきました。彼は賢く、京都大学進学が芸人の売りにになると提案したら、すぐに現役合格しました。デビュー当初は、参考になる芸人はいなかったんで、新しいことを追求し続けました。そのうち彼がクイズ番組でボタンを押すだけで活躍できるようになったのです。
宇治原 押すだけかい(笑)。高校時代はほとんど菅さんとしがしゃべっていないのは事実です。芸人に誘った彼が浪人したためオーディションを受けるまで1年待ちました。とにかく二番煎じにならないよう心掛けながらも長続きできるよう、変な話、ブレイクしないように考えていました(笑)。関西のファンの方に支えられ、緩やかに上っていくことができました。

★コンビの原点とお互いへのリスペクト

—昨年はロザン結成25周年でした。振り返って視点を変えられたようなことは？
菅 僕らが若手の頃は、コンビ同士の仲が悪い方がカッコイ

いという風潮もありました。そうなのかな、と思うこともあったのですが、2人でしゃべりたくて芸人になったという原点に立ち返った時に、周りに流されずに仲良くやっていった方がいいんじゃないかと感じたのがRethinkでした。また僕が書いたネタを宇治原さんが時々忘れ、サボっているんじゃないかなと思ったことがありました。しかし、自分の書き方がいけないのかも手直しするとすぐに覚えてくれました。見方は変えてみるものですね。
宇治原 礼儀が必要だということはお互い思っていて、高校時代から相方のような雰囲気ではあったのですが、普段は「さん付け」で呼び合い、敬語で話し、プライベートには深入りしません。一方、友達でもあるので、最初はプライドのようなものもあって、「こう直した方がいい」と言われると嫌だなどと思う気持ちも正直ありました。でも、ツッコミ手の僕に、できることを伸ばして勝負した方がいいとアドバイスする菅さんは、あくまでコンビを成長させることを願っているだけとRethinkした時から、僕は彼をリスペクトできるようになりました。彼が伝え方が悪いと思えたのは、彼にも僕を尊重する意識があったからこそだと思います。

★自身を見つめることから始める

—自分の強みの発見や、チャレンジについて何か助言があれば。
菅 失礼なことを言うかもしれませんが、親御さんや学生の中

で「芸術で飯を食えるのか」という不安がある方もいると思います。芸大卒業生の進路や年収といった情報をリアルに発信していく、芸術作品を適切に販売する手法を指南することなども大事なことに思います。
赤松 伝統を常に更新する懐の深さ、外からの目も加えてRethinkする力が京都にはあると私も感じます。菅さんご指摘のように、こと芸術では食えないと言われるが、一般企業でもアートの発想は現代では欠かれません。大学としても卒業後を支えることを念頭に、確定申告講座やポートフォリオ講習など実務支援もしっかり行っていきます。
門川 人口当たりの芸術家の数が多い都市は、寛容度が高くクリエイティブな成長を生むそうです。京都市は、市内の金融機関等とともに公共的課題解決で学生の意見を募り、企業の支援のもと実証までをサポートする「The Future of KYOTO AWARD」を創設しました。若い人材の積極的な参加を期待しています。
宇治原 京都の寺社は歴史があり残していかないといけないものだというイメージがありますが、建立当時は最先端建築だったはずで、現代の東京スカイツリーのようなもので、京都はそういう最先端を取り入れてきた町だと思います。僕らがロケに行く中でも、若い人が町家で斬新な店を開いたりしていますが、歴史あるものと最先端のものをうまく融合してきた京都の強みを生かせたいですね。

宇治原 最近は、趣味の充実や学び直しを耳にする機会が増えました。これまでいろいろな先生から聞いた話をまとめる二つの方向があるように思います。一つは、やりたいことに没頭すること。もう一つは、何かをする時に、全く発想になかったことをやってみること。例えば勉強で言うと、理数系を好きな人が哲学の勉強をすると、視点が変わって結果的に好きな分野にもますます磨きがかかるそうです。
菅 誰か第三者に自分に向きそうなことを指摘してもらってもいいかもしれませんが、他人と比べがちな意識を自分に向けて楽しく、長続きすることもあるようです。例えば運動にしても、大人になるとゴルフやマラソンなどに行き着くことを考えると、自身と戦うという認識が鍵を握るのではないのでしょうか。そして楽しいこと、成長できそうなことに力点を置く。宇治原さんもクイズ番組で回答すること自体が楽しいそうですよ。

ロザン/1976年大阪府生まれ。大阪教育大学附属高校天王寺校舎で出会い、同級生コンビとして1996年にロザンを結成し、昨年25周年を迎えた。情報番組コメンテーターやバラエティ番組、クイズ番組に加え、舞台、イベントでも大活躍中。著書「京大芸人」シリーズは累計30万部超えの大ヒットを記録。さらに昨年出版したロザン初の共著「京大芸人ノート」が早々に重版決定となるなど、多岐にわたって話題を呼んでいる。

テーマ「Rethink 京都～若者と創る京都の未来～」

パネルディスカッション出演者 ロザン、門川 大作氏 (京都市長)、赤松 玉女氏 (京都市立芸術大学長・画家)、高田 敏司 (京都新聞社論説委員長)

若者の力を京都で発揮するには

高田 15万人の学生数は京都市の人口の1割に相当し、大半は卒業後にいなくなります。コロナでオンライン化も加速しました。門川 京都で学ぶ学生の7.5割以上は京都以外から来られ、卒業後、8割は京都を離れるのが現状で、京都は学びそのものに責任を持っているといえましょう。一方で、京都市は2015年、ソーシャルイノベーション研究所を立ち上げました。日本が抱える社会課題の解決を京都が率先して目指すと同時に、市内でのスタートアップ立ち上げ促進にも取り組んでいます。
赤松 142年の歴史を持つ京都市立芸術大学は、京都の文化的蓄積を活用した一学年200人の少人数教育が特長です。コロナ禍で進めざるを得なかったオンライン教育の価値を認めつつも、クリエイティブ人材育成にはリアル現場だけが持つ緊張感や豊かな交流も欠かせません。
宇治原 祇園祭など伝統文化に対する京都の思い入れの強さに驚いたことがあります。ただ、オーバーツーリズムとまでいわれるほど観光地のイメージが強過ぎるので、もっと住みやすさや子育てのしやすさもアピールするといいたくないのでしょうか。
菅 学生向け飲食店が豊富な一方で高級店も多く、中間価格帯の店が少ない印象があります。また、ある意味、オンライン化が進んだことで京都に住まなくてもよくなる、将来的に学生数が減ってくる事態も想定しておく必要があるように感じます。Rethinkはいいことだけではなく、いいとは言えないことまでにも幅を

げて考えることだと思います。
門川 観光では季節・時間・場所の集中分散を図ると同時に、若い人が住みやすいような住宅整備にも力を入れています。こうした取り組みをもっと発信する必要があるかもしれません。ただ、学生減の時代になっても、文化的な空間で学べる京都の強みは変わりないと考えています。
赤松 今後、18歳人口は減ってくるので、コロナは近未来を早回しで見せてくれた面もあり、大学自体が見直される将来の風景も考えさせられたのは事実ですね。

2機関移転はRethinkを巻き起こすか

高田 2023年はくしくも、文化庁と京都市立芸術大の移転事業が完了します。
門川 京都市は44年前に世界文化自由都市を宣言しており、文化庁移転により京都は優れた文化を創造し続ける文化都市としての役割を果たさなければなりません。日本初の芸術大学である京都市立芸術大は分野を融合してイノベーションを起こす拠点となると確信します。
赤松 現代では、Science・Technology・Engineering・Mathematicsから取ったSTEM教育、つまり論理で数値的解を追求するだけでなく、Artを加えたSTEAM教育が重要と言われています。京都駅近所に移転する強みを生かし、産業界など各界と広く連携していく予定です。

菅 失礼なことを言うかもしれませんが、親御さんや学生の中で「芸術で飯を食えるのか」という不安がある方もいると思います。芸大卒業生の進路や年収といった情報をリアルに発信していく、芸術作品を適切に販売する手法を指南することなども大事なことに思います。
赤松 伝統を常に更新する懐の深さ、外からの目も加えてRethinkする力が京都にはあると私も感じます。菅さんご指摘のように、こと芸術では食えないと言われるが、一般企業でもアートの発想は現代では欠かれません。大学としても卒業後を支えることを念頭に、確定申告講座やポートフォリオ講習など実務支援もしっかり行っていきます。
門川 人口当たりの芸術家の数が多い都市は、寛容度が高くクリエイティブな成長を生むそうです。京都市は、市内の金融機関等とともに公共的課題解決で学生の意見を募り、企業の支援のもと実証までをサポートする「The Future of KYOTO AWARD」を創設しました。若い人材の積極的な参加を期待しています。
宇治原 京都の寺社は歴史があり残していかないといけないものだというイメージがありますが、建立当時は最先端建築だったはずで、現代の東京スカイツリーのようなもので、京都はそういう最先端を取り入れてきた町だと思います。僕らがロケに行く中でも、若い人が町家で斬新な店を開いたりしていますが、歴史あるものと最先端のものをうまく融合してきた京都の強みを生かせたいですね。



主催/京都新聞 後援/京都府、京都市、京都商工会議所、KBS京都、EFEM京都、J:COM 京都みやびじょん、BBCびわ湖放送、e-radio 協賛/Rethink PROJECT (Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組む地域社会貢献への取り組みの総称です)